

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

217号

★ 2019年10月31日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 公聴会がありました

10月29日(火)雨の降る平日の10時から5時過ぎまで、新宿文化センターで国交省主催の「東京国際空港の指定した円錐表面及び外側水平表面の変更に関する公聴会」がありました。

円錐表面の変更というのは、羽田増便計画に伴い、東京上空の飛行高度制限を変更する事です。スカイツリーや東京タワーなど、既成の建造物を除き、高さ制限をするわけですが、多くの人はその変更にも問題があるが、都心低空飛行計画そのものの問題点を指摘、撤回を訴えていました。

新ルートにしなくても増便できる道を国交省と共に模索しようとの提案も出ました。

公述する人は事前に申し込み、当日は55人が持ち時間10分で意見を陳述しました。傍聴者は雨の平日でもあり、50人ほどでしょうか。それでも熱心に聞き、拍手も起きました。

だいたい、こんな集会があることも知らない人が多かったのではないのでしょうか。知ったとしてもこの日時では参加できなかったと思います。

半分はさくら

賛成の公述者は航空会社やホテル・物流などの関係者です。国交省からお招きされたのでしょうから、もとより儲けの意味でも反対意見を言うはずがありません。

データもいい加減



国交省の挙げる数字がいい加減だとの指摘もありました。こんなに無理をしても便数はわずか2%の増加でしかないとか。オリパラ以後も観光客が4000万人が6000万に増えるのでしょうか？

○ 図書館跡地に音楽ホールは可能

先日陳情が不採択にされた理由のひとつに、700㎡の敷地にホールは無理、という意見がありました。とんでもありません。充分可能です。

たとえば代々木上原にあるムジカーザというホールは、稼働率90%を越える人気の音楽ホールですが、120名収容の小ささです。他にも同様の例は多数見つけられます。

板橋区にあるホールは、大規模か中規模で、多目的となると音響効果は落ちてしまいます。その結果、それほど集客力のない、あるいは集客する必要のない層の発表や練習の場が無いのです。区内外の音楽家や音楽愛好家にとっては地元での活動が可能になるチャンスです。

また、地元常盤台の人達も意見を聞いた限りでは殆ど全員が賛成でした。良質な人達の出入りはまちづくりの意味で歓迎です。商店も潤うのではないのでしょうか。

こういう地元からの要望は無視されて、上からの一方的な計画だけが押しつけられるのは、民主主義国家とは言えません。

○ 靴と苦痛



さまざまな分野で影響力をもち、人々の心を動かした女性が讃えられる英国BBC放送の「100人の女性」に、「#KuToo」署名発信者の石川優実さんが選ばれました。苦痛を掛けた「kutoo」運動は多くの女性の共感を呼びました。ヒールの高いパンプス着用の規定を設けている会社の存在も明らかになり、改革が望まれています。

「成城石井」「ポポラマーマ」出店

駅の東側のビルに出店するのは、以前のビルに入っていた「ポポラマーマ」と、最近駅ビルに必ず出ると噂の「成城石井」と分かりました。どちらも住民にとってまあまあ期待通りのお店かもしれない。特に後者は、わざわざ池袋に行かなくても済むと喜んでいて人が多いようです。

この街にこのお店は永く存続してほしいと思えば、少し高めでも支援のつもりで利用しなれば潰れてしまいます。街のために、なるべく地元にお金は落とさない。

道路脇の植栽 ハナミズキもため

めぐみ幼稚園から上板橋へ向かうバス通りの歩道と車道の間ツゲの植栽が撤去される。木陰を作る樹木を植えてほしいという住民の要望は容れられなかった。区の提案は1m丈のフェンスにツタを絡ませるといふもの。初めのガイドレール案よりはマシになったが、常盤台のガイドラインに謳っている「緑豊かで調和のとれた街並み」にも反するのではない。道に並木を植えるのは、環境にも景観にも良いと共に、人間の情緒にも安らぎをもたらす、人間社会の中でささくれた神経を癒やす効果があるからだ。

また、プロムナードやクルドサックにある照明をLEDの電球色に統一したいという話があった。支柱の色は黒に近い灰色とし、統一感を持たせるといふ。傘の部分はシンプルで無機質なものであるという。クルドサックは常盤台の象徴として、研究者が撮影したりするので、もう少しデザイン性のある物に変えてほしいと申し入れた。

台風十九号

十月十二日夜の大型台風は確かにすごかった。二十一時過ぎに二十三区で初めて練馬区と板橋区に特別警報とやらが出て「避難行動に入ってください」と公園の拡声器が言っていたが、雨の中ではよく聞き取れないし、家の中にいる方が、外の暴風雨の中に出ていくよりははるかに安全だから、常盤台では誰も避難しなかったと思う。だが、石神井川は危険水域だったとか。公園では倒木の心配のある樹齢百年近いスタジイが数本切られた。助かった木も枝をすかれ隣りの文化財的家屋に倒れかかったら困るから仕方が無い。

しかし、風で倒れて被害があるという理由で樹木を切るなら電信柱を先に始末してほしい。

選択制夫婦別姓で意見書採択

十月十一日の板橋区議会で、夫婦別姓を選択できる制度を国会で審議することを求めた陳情が、全会一致で採択されました。某党の頑固なおじさまやおばさまが他界しなければ通る日は来ないと言われたものが、さすがに時代の変化を認めざるを得なくなったのでしょうか。少々かも知れませんが進歩です。

しかし、少子化が進み、男性側にも支障が出てきたことが大きな要因なので、まだまだ根底に潜んでいる伝統的家族観や女性蔑視は変わっていないと思われまます。

この快挙?を報じた朝日新聞の同日の夕刊では、夫婦別姓訴訟原告団の塚本協子さんの逝去が「惜別」欄に載っていました。

常盤台公園のはなづくり

十一月の初めにチューリップの球根植えがあります。皆さんにマーメイドを買って頂いたおかげで今年も沢山の球根を購入できました。

今回はピンクを中心にしてみましたが、少ししつこかったかなと反省しています。そこでビバホームで白の球根を買い足しました。さて、四月にはどんな花壇になっているでしょうか。

大風の被害を少なくするため、落葉を待たずに枝葉をすかれたので、いっぺんに冬木立のようになりました。

並木道も落葉掃きの負担軽減から、早めの剪定が行われるのですが、自然の摂理に反する前に清掃車の導入を先ず考えようでしょうか。

三十日は珍しく霧が立ちこめました。八時過ぎにやっと日が差し込み、爽やかな秋日和になって、こんな気候が続けば良いとしみじみ思います。暴風のあとに水害という千葉や福島の人達のことを思いやられます。

ハザードマップを見ると、常盤台でも、集中豪雨で下水処理能力を超えてあふれる場合、一部では一階の床下(50cmほど)まで浸水するとなっています。実際は盛り土の上に建っている家が多いので、それほど心配はないと思われまます。

